

年間指導計画例

目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

学期	題材	目標と指導内容	歌唱	器楽	創作	鑑賞	評価の観点			
							音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
一学期(4~7月)	青春と音楽	<p>(目標) 歌唱や創作の諸活動を通して、歌唱技能の基本や、簡単なリズムのつくり方を学び、音楽の楽しさを味わう。</p> <p>(指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌うことの楽しさを感じ取らせる 呼吸法、口形、共鳴など発声の基本を学習させる 読譜力の伸張を図る ポピュラー音楽の概要を学習する 言葉を生かしたメロディーをつくる 	○				<ul style="list-style-type: none"> 歌唱することに喜びを感じ、正確な読譜や適切な発声に努めることに主体的に取り組んでいる。 言葉のリズムや抑揚に関心を持ち、意欲的にメロディーを創作している。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を見て音程、リズム、テンポ、表情等を把握し、しっかりと発声で、より楽しく歌唱する表現の工夫をしている。 言葉のリズムや抑揚の特徴や雰囲気を知覚し、それを表現に生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりと発声で、楽譜に書かれた情報を把握し表現する技能を身に付けている。 言葉のリズムや抑揚を生かして創作する技能を身に付けている。 	
	日本の音楽(1)	<p>(目標) 歌唱・器楽・鑑賞の諸活動を通して、日本のさまざまな音楽に触れ、その良さや美しさを感じ取る。</p> <p>(指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取って鑑賞する わが国や郷土の伝統音楽の種類と特徴を理解して鑑賞する 	○				<ul style="list-style-type: none"> 曲想と歌詞の内容や文化的背景、及び民謡の発声の特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱しようとしている。 声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらのつくり出す雰囲気や歌詞の内容や文化的背景と関連付けながら、発声の特徴を生かして表現しようとする工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想をイメージを持って表現するために必要な発声を含めた技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解し、わが国や郷土の音楽の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
	人間と音楽	<p>(目標) 歌唱や鑑賞を通してさまざまな合唱音楽を体験し、その表現方法や良さを味わう。</p> <p>(指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な輪唱やさまざまな形態の合唱をする 中世ルネサンスの音楽の鑑賞 	○				<ul style="list-style-type: none"> さまざまな形態の合唱を持つ、それぞれの良さや持ち味に関心を持ちながら歌う学習に、主体的に取り組もうとしている。 楽曲の文化的・歴史的な背景や声の音色と表現上の効果に関心を持って主体的に鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じ、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関連付けながら、表現しようとする工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな表現形態による歌唱の特徴を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、楽曲の文化的・歴史的な背景を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
二学期(9~12月)	器楽	<p>(目標) 器楽の実習を通して楽器の表現に親しみ、技能の伸長をはかるとともに、その特長を生かした表現の良さを味わう。</p> <p>(指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ギター、リコーダーの基礎的な奏法の実習 楽器の音色や奏法の特徴を生かした表現の工夫 簡単な器楽曲の創作 楽器の音色や奏法と楽曲の背景をとらえた鑑賞 		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色や奏法に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 さまざまな方法によるメロディー創作に主体的に取り組んでいる。 声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的な背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、表現意図を持って演奏する工夫をしている。 モチーフや和音の働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら、表現意図を持って創作している。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。 音楽を形づくっている要素の働きをとらえ、それを生かして創作する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、楽曲の文化的・歴史的な背景を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
	世界の音楽(2)	<p>(目標) 歌唱や鑑賞を通して、世界の音楽の種類や特徴を理解し、その良さを味わう。</p> <p>(指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲種に応じた発声法の工夫 楽曲の背景と曲想との関わりを意識した表現の工夫 文化的・歴史的背景に基づく楽曲の鑑賞 	○				<ul style="list-style-type: none"> 地域や民族による発声や音楽の特徴の違いに関心を持ち、意欲的に歌唱しようとしている。 声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や民族による特徴的な音楽的要素(音階・リズム等)を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、表現意図を持って歌唱する工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想をイメージを持って表現するための発声を含めた技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、楽曲の文化的・歴史的な背景を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深めている。
	芸術と音楽(1)	<p>(目標) 劇や物語と音楽の結びつきを理解し、イメージを持って表現したり鑑賞したりする。</p> <p>(指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽曲の背景を意識した表現の工夫や鑑賞 劇や物語と音楽との関わりを意識した表現の工夫や創造的な鑑賞 文化的・歴史的背景に基づく楽曲の鑑賞 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 劇や物語と音楽の関わりに関心を持ち、意欲的に歌唱したり、演奏したり、鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、表現意図を持って歌ったり、演奏したりする工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想をイメージを持って表現するための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、作曲家・演奏者による表現の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、良さや美しさを味わっている。

学期	題材	目標と指導内容	歌唱	器楽	創作	鑑賞	評価の観点			
							音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
三学期(1~3月)	アンサンブルを楽しもう	(目標) 声や楽器を組み合わせて演奏したり、さまざまな音素材を用いた創作を通して、それらに必要な技能を身に付けイメージを持って表現する。 (指導内容) ・声や楽器の音色、奏法、それらの組み合わせを生かしたアンサンブル活動 ・さまざまな音素材による音楽づくり ・文化的・歴史的背景に基づく楽曲の鑑賞	○	○	○	○	・楽器の音色や奏法および、それらの組み合わせの面白さに関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組みようとしている。 ・声や楽器の音色の特徴や、楽曲の文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら、表現意図を持って演奏する工夫をしている。 ・音素材の特徴を生かして、反復、変化、対照などの構成を考え、表現したい音楽をイメージし、表現を工夫して音楽をつくらうとしている。	・楽器の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。 ・音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を工夫した音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素が生み出す特質や雰囲気と、歌詞の内容や楽曲の背景との関わりを感じ取り、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりしながら創造的に味わっている。
	芸術と音楽(2) 独唱	(目標) 歌詞の内容や楽曲の背景を研究し、必要な技能を身に付け、イメージを持って表現したり、楽曲の価値を感じ取る。 (指導内容) ・芸術的な音楽表現のための発声や発語の工夫 ・歌詞の内容や楽曲の背景を十分に研究した音楽表現の工夫 ・芸術歌曲の鑑賞と批評	○			○	・曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わりに関心を持ち、イメージを持って歌唱したり、鑑賞しようとしている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じ取りながら、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫している。	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージを持って音楽表現するために必要な発声、発語、読譜等を身に付け、創造的に表現している。	・音楽を形づくっている要素が生み出す特質や雰囲気と、歌詞の内容や楽曲の背景との関わりを感じ取り、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりしながら創造的に味わっている。

■ 学習指導計画の立て方

学習指導計画とは

学習指導計画は、その学校全体の教育目標に基づき教育課程の実施に際し、実際の音楽指導に結びつける最も重要なもので、学習指導要領に示された目標をどのように実現達成すればよいか、具体的な方法と手順を示したものである。この指導計画を作成することは、生徒の学習活動を方向づけるとともに進度に合わせた学習達成度を正しく評価することを可能にするのである。

具体的な指導計画を作成するには、学校や地域の実情、生徒の実態を的確に把握するとともに、年間時数や設備・教材等を考慮する必要がある。

学習指導計画の作成

1. 目標の設定

学習指導要領に示された芸術科・音楽Ⅰの目標を基盤に置き、そこから学校における音楽Ⅰの一般的な目標を、さらに領域別目標、題材・主題別

目標を設定する。

一般に音楽における指導目標は、情意的目標と認知的目標に大別できる。「音楽への関心を高め、主体的な学習態度を育てる」ならば前者に当たり、「音楽の種類や特徴を識別し、音楽を理解する能力を育成する」であれば後者に分類できる。

2. 題材の設定

指導目標に従って、生徒の実態を考慮しながら適切な学習活動が行われるよう指導範囲を決め、これを系統立てる。そのうえで題材を構成し、適した教材を配当するという手順で指導内容を組織化する。

題材とは一定のまとまりを持つ学習指導の単位で、題材の構成には「楽曲(教材)による題材構成」「主題による題材構成」の2種類がある。

前者は歌唱教材や鑑賞曲など、楽曲そのものを指導の題材として扱うもので、これに対し後者ではより大きな音楽的まとまりを題材とし、例えば「伸びやかな声で歌おう」「声の表情による作品づ

くり」などがこれに当たる。

3. 教材の選択

教材とは授業に必要な資料すべてを指すが、ここでは楽曲を中心に考えることにする。教材選択の視点としては次の4点が挙げられる。

まず第1に「芸術的に優れた教材」が挙げられる。生徒の芸術を愛好する心情や、音楽的な感性の育成のために当然考慮しなければならない。

第2に「生徒の心情・嗜好を重視した教材」である。生徒の音楽に対する感じ方は多様であり、日ごろ親しんでいる音楽と学校の授業におけるそれとは異なる場合が多い。生徒の嗜好に目を向け、これらを否定することなく教材化していくことは単なる「迎合」とどまらず、それぞれの音楽の価値を認めつつ、次第に芸術性豊かなものへと音楽的成長を目指すことにもつながるのである。

第3にグループ研究や自由発表などの学習形態の中で、「生徒個人の実状に合った教材」が挙げられる。

最後に、「音楽観の拡大を目指した教材」の選択である。西洋クラシック音楽のみではなく、我が国の伝統音楽や諸民族の音楽など多様な音楽を教材として取り入れることは、生徒に音楽的価値の多様性に気づかせるために非常に有用である。

以上教材選択上の四つの視点を述べてきたが、いずれの場合においても、設定した題材や指導目標を達成するために適した教材を選択しなければならない。

4. 学習形態

生徒の自主性や創意・工夫を引き出すためには、従来の一斉指導以外にも指導内容に合わせてさまざまな学習形態を工夫することが有効となる。

最後に主なものをまとめておこう。

1. グループ学習
2. 個別指導
3. 発表形式の学習